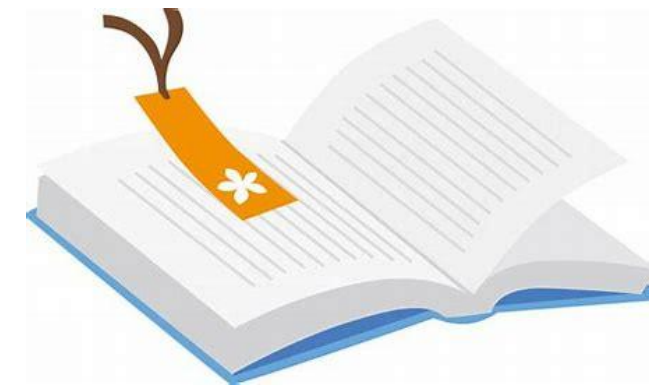


図書館だより

第4号

2020年11月号



2学期が始まり約3ヶ月が経ちました。夏の暑さも去り、朝夕が肌寒くなる秋がやってきました。

秋といえば、読書の秋ということで、自習だけでも良いので、図書館に是非とも足を運んでみてはいかがでしょうか。図書館には様々な本があります。手に取って読んでみてはどうですか。

新刊紹介



『「ひと」として大切なこと』
渡辺和子 著
(PHP 研究所)

たった一度の人生を輝かせたい。そう願いながらも、せっかくの一日をつまらなく過ごしてしまうことがあります。本書は、心が晴れない時や生き方に迷う時、「自分らしさ」を見失わないための人生論です。

『幸せになる勇気』
岸見 一郎 著
(ダイヤモンド社)

大ベストセラーとして空前のアドラーブームを巻き起こした『嫌われる勇気』の完結編です。大きな特徴として、この本ではアドラーの語る「愛」や「自立」について深く踏み込んでいるという点があげられます。アドラーが提唱する幸福論が、この2つのキーワードをもって示されているのです。

『嫌いな人がいる人へ』
古山 有則 著
(KADOKAWA)

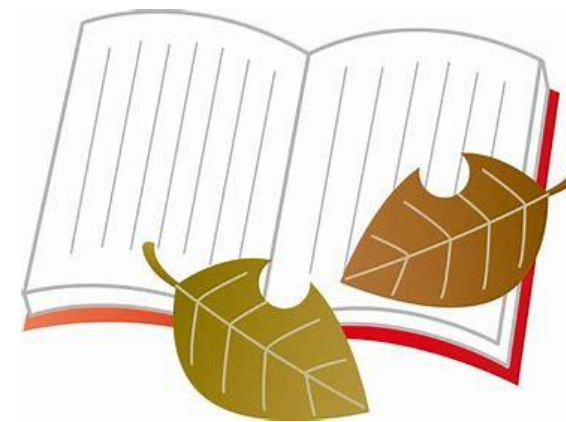
インスタフォロワー9万人、対面や電話カウンセリングなどで予約がとれないメンタルトレーナーとして人気の古山有則が、人間関係に悩む人へ送る初書籍です。自分のことも他人のことも好きになれない、周囲とのコミュニケーションの取り方に戸惑ってしまう・・・そんなとき、自分を振り返るきっかけになるメッセージが満載です。

『勉強が死ぬほど面白くなる独学の教科書』
中田 敦彦 著
(SBクリエイティブ)

いま、学び直しの社会人、学生、主婦などから、「勉強って、こんなに面白かったんだ!」「面白いだけでなく、圧倒的にわかりやすい!」「学生時代、こんな先生に習いたかった!」と絶賛され、話題沸騰中の中田敦彦が、世界史、日本史、文学、政治、経済、英語などの勉強が死ぬほど面白くなる独学の40のコツを初公開!しています。

『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』
日本ペンクラブ 著
(ポプラ社)

「親友を裏切ってしまった」「校則って理不尽じゃないですか?」「お金がなくても成績を上げる方法はありませんか?」と、ままたまらない人間関係、経済的な苦しさなど、いま、逆境のただなかにいるティーンズの悩みに、ペンクラブ作家が言葉をもって向き合います。森絵都、令丈ヒロ子、沖方丁、俵万智、ドリアン助川、阿川佐和子、茂木健一郎ら44名による、本気の人生相談です。



図書館は今年度中、工事の関係上、使用できなくなります。